

令和3年 知事表彰「かがわ21世紀大賞」を決定

かがわ21世紀大賞は、香川県のイメージアップやにぎわいづくりなど県政の推進に特に功労のあった方を顕彰する制度です。

学識経験者などから構成された選考委員会で審議の上、今回は次の1名1団体に決定しました。

1 被表彰者と主な活動内容

(敬称略)

番号	被表彰者(敬称略)	主な活動内容
1	東京都在住 ちば ゆきこ 千葉 由希子 現 家庭画報 編集部編集長 S45.2.18(51歳)	2018年10月から、『夢と美を楽しむ』がコンセプトの月刊誌「家庭画報」15代目編集長として活躍している。 同誌は2017年度から、香川漆芸と海外のハイブランドとのコラボを実現し、誌上で特集企画を組んでおり、この企画が香川漆芸のイメージアップに繋がり、新たな作品制作の提案などを受けている。 2021年4月号では、長年パリを拠点に活躍し、昨年10月に逝去された世界的なデザイナー高田賢三氏の最後の作品として、人間国宝(香川県文化功労者)の山下義人氏監修、香川漆芸作家ら4名とともに、重箱とプレートセットを完成させるコラボ企画を実施するなど、コロナ禍においても、本県の魅力を新たな視点で見出し、その魅力を全国に発信することに大いに貢献している。
2	所在地 善通寺市 かがわけんりつぜんつうじだいいち 香川県立善通寺第一 こうとうがっこうでざいんか 高等学校デザイン科 H19 善通寺西高校デザイン科 を統合	善通寺第一高校デザイン科は、1期生から10年以上、専門教科の一つである課題研究において地域連携を行っており、令和元年度には、善通寺市が『黒板アートによる町おこし』のため、作品を応募したところ、可動式黒板を引いて街中に出かけ、「描く・消す」の行為をしながら写真撮影をする作業行動自体を「黒板アート」のPR活動とし、多くのメディアに取り上げられるとともに、国際コンテストである「ニューヨークフェスティバル2020 広告賞学生部門」でファイナリストに選ばれるなど、その活動は、地域の活性化やイメージアップに大いに貢献している。

2 表彰式

新型コロナウイルス感染症の状況を確認し、後日調整を行う。